

目 次

緒言	i
----------	---

1 一漢方医学の現況

はじめに	2	漢方薬と経済効率（費用対効果）	10
伝統医学をめぐる世界の動き	2	東洋医学関係の学会とその活動	11
日常診療の中の漢方	4	教育と専門医制度	13
医療の中の鍼灸	6	おわりに	16
健康保険と漢方薬	7		

コラム 漢方薬の値段 7

名医のカルテより 曲直瀬玄朔，関白秀次の喘息を治す 17

コラム 江戸期以前の医学教育 18

2 一漢方医学の歴史

中国篇

中国医学の発生と『黄帝内経』の成立	20	南宋から金元代—百花繚乱の学説	22
『傷寒論』の成立	21	明代から清代—統合と簡易化	22
隋・唐の医学	21	中華民国成立より現在まで	23
宋代—医学の大衆化	22		

コラム 中国古代の解剖学 24

日本篇

中国医学の導入と模倣の時代	25	江戸時代中期—古方派の勃興	27
鎌倉時代	25	江戸時代後期—折衷派の時代	27
室町時代	25	明治維新から現代まで—衰退と復興	29
江戸時代初期—曲直瀬流の隆盛	26		
コラム 中医学の歴史と日本への受容	30		
コラム 漢方医学の三大古典	32		
コラム 漢方医学の流派	34		

3 一漢方医学の構造

はじめに	36	弁証論治と方証相對の構造の違いと臨床の	
中国伝統医学の構造	36	かたち	39
1 中医学	36		
2 漢方医学	38		
コラム 先端的だった方証相對システム	40		
名医のカルテより 浅田宗伯、フランス公使の坐骨神経痛を治す	41		

4 一漢方医学の基本概念

はじめに	42	陰陽五行説の医学への応用	43
陰陽五行説	42	1 陰陽説の医学への応用	43
1 陰陽説	42	2 五行説の医学への応用	44
2 五行説	43		
コラム 日本漢方と方証相對	46		
コラム 学と術—永富独嘯庵の医術について	48		
名医のカルテより 矢数格、全頭脱毛症を治す	49		

5 一 漢方生理学

はじめに	50	3 各臓腑間の関係	56
人体の構成要素とその働き	50	4 奇恒の腑	56
気・血・津液・火(陽気)・精	50	経絡	56
臓腑	52	1 十二正経	57
1 五臓	52	2 奇経八脈	58
2 六腑	53		
コラム 気の生理作用	51		
コラム 2つの循環系	58		
名医のカルテより 古林見宜, 板倉重形の嘔吐を治す	59		
トピックス 4種の衛気の流れ	62		

6 一 漢方病因学

はじめに	64	2 内因	67
三因(外因・内因・不内外因)	64	3 不内外因	67
1 外因	64	病理産物	68
コラム 内生五邪	66		
名医のカルテより 和田啓十郎, 胆嚢結石を治す	69		

7 一 漢方病機学

はじめに	70	2 六腑の病証とその病機	77
疾病を総括する二種の基本的病機	70	3 多臓器にわたる病証とその病機	78
1 邪正闘争	70	病邪による病証とその病機	79
2 陰陽失調	71	1 外邪および内生五邪による病証とその病機	79
気・血・津液・火(陽気)・精の病証とその病機	72	2 病理産物による病証とその病機	82
臓腑の病証とその病機	73	六経分類による病証とその病機	82
1 五臓の病証とその病機	73	衛気営血分類からみた病証とその病機	83

コラム 八綱からみた病機 71

コラム 内邪と外邪 80

コラム 傷寒と温病 84

名医のカルテより 湯本求真，老婦人の気管支炎を治す 85

8 一漢方診断学

はじめに	86	聞診	90
望診	86	問診	90
1 「神」の望診 86		切診	91
2 全体的な形態の望診 86		1 脈診 92	
3 顔色の望診 86		2 腹診 96	
4 身体各部位の望診 87		病態の診断（弁証—病因病機の分析）	99
5 分泌物・排泄物の望診 87		処方診断（方証相対）	99
6 舌診 88			

名医のカルテより 香月牛山，伏暑の流行に新処方を開発 105

日本の名医たち 曲直瀬道三・曲直瀬玄朔・後藤艮山

吉益東洞・華岡青洲・浅田宗伯 106

9 一漢方薬物学

総論

はじめに	108	3 配合禁忌 111	
生薬の採集・生産と流通	108	4 禁忌 111	
炮製	108	使用上の注意	111
生薬に備わった基本的性質	109	1 副作用 111	
応用の一般的事項	110	2 その他 113	
1 薬用量 110		調剤	114
2 配合原則 111			

コラム 日本と中国で基原の異なる生薬 115

各論

1 解表薬 118	6 利水滲湿薬 122	11 止血薬 124	16 開竅薬 126
2 清熱薬 119	7 温裏薬 123	12 化痰薬 125	17 補虚薬 126
3 瀉下薬 121	8 理気薬 123	13 止咳平喘薬 125	18 収渋薬 128
4 祛風湿薬 121	9 消食薬 124	14 安神薬 125	19 その他 129
5 芳香化湿薬 122	10 活血化瘀薬 124	15 平肝熄風薬 126	

コラム 西洋伝統本草の漢方医学への応用 130

10 漢方処方学

総論

はじめに 132	剤型 133
処方の組成原則 132	服用法 133

各論

1 解表剤 134	6 温裏剤 141	11 固澁剤 146	16 祛湿剤 150
2 瀉下剤 135	7 表裏双解剤 142	12 理気剤 146	17 祛痰剤 152
3 和解剤 136	8 補益剤 143	13 理血剤 147	18 消導化積剤 153
4 清熱剤 137	9 安神剤 145	14 治風剤 148	19 癰瘍剤 154
5 祛暑剤 140	10 開竅剤 145	15 治燥剤 149	20 その他の方剤 155

コラム 漢方薬の軟膏 155

11 漢方治療学

治療と治療原則

はじめに 156	2 治法細則 158
治法 156	治療原則 160
1 基本八法 156	

弁証論治

はじめに	161	2 六腑の病証の治療	165
八綱弁証にもとづく治療	161	3 複数の臓腑の病証の治療	166
気血津液弁証にもとづく治療	162	病邪弁証にもとづく治療	167
臓腑弁証にもとづく治療	163	六経弁証にもとづく治療	168
1 五臓の病証の治療	163	衛気営血弁証にもとづく治療	169

コラム 運氣論と漢方 170

方証相對

はじめに	171	方証相對における腹診	174
現行の方証相對	171	方証相對の薬物学	176
方証相對に用いられる諸概念	171	方証相對の処方学	176
1 陰陽・表裏・寒熱・虚実	172	口訣の運用	178
2 気・血・水	173	おわりに	178
3 六病位（六経）	173		

コラム 日本漢方における「証」 174

コラム 方証相對システムの歴史 177

コラム 一貫堂医学 179

コラム 「虚」と「実」 180

名医のカルテより 半井慶友，播磨屋助左衛門の傷寒を治す 182

名医のカルテより 北山友松子，松平頼純の痰嗽を治す 183

主要生薬一覧	185
主要処方一覧	195
中国・日本医事年表	213
索引	221